

以下の文章は、3年生の始業式で述べたものである。1・2年生にも3年生の現在の状況を理解してほしいので、掲載する(PART I)。

部活動をやっていない生徒も、「もし、自分が部活動をやっている立場だったら、全国高校総体や夏の甲子園の中止を受け、どのように行動するか」を考えてほしい。他人の立場になって、物事を考える力は、皆さんにとって必要だと思うからだ。

まず、北京五輪陸上男子 400MR 銀メダルの末続慎吾さんが、全国高校総体中止を受け、高校生たちへ向けたメッセージ(読売新聞 5/3)の一部を紹介する。これは、部活動生だけではなく、3年生すべてに対するメッセージとして聴いてもらいたい。

全国高校総体が中止となった。僕らスポーツに携わり人生を歩んできた人間にとって、高校総体はいわば「大学受験」みたいなものだった。高校総体を通して、これから先のことも考えていた高校生は、不安でいっぱいではないか。だからこそ、今の君たちに伝えたいことがある。

僕にとって高校総体は、必ずしも輝かしいものではなかった。

1年は200Mで予選敗退。2年は200Mで8位。3年では大会約1か月前に体育の授業で足を18針縫う大けがをして、100Mで8位、200Mは走りきれず予選敗退。

しかし、その後も陸上を続け、日本、アジアで一番になった。

そして五輪、世界選手権でメダルを取った。

僕はスポーツ選手が持つ夢を、叶えた。

でも、その夢を叶えた後、どうしても幸せを感じられなかった。

そして僕が知ったのは、大切なのは夢を叶えたかどうかではない、ということ。

一番大切なのは、「どれだけ真剣にできたか」ということだと、知った。

突然、目の前から夢や目標がなくなった時、君は何を思っただろうか？

真剣であればあったほど、絶望や虚無感を覚えただろう。

でも、これだけは言える。それは君が本当に真剣だったからだ。

絶望を目の前にした今は、

本当は君たちにとって一番大切なことを知る時間でもある。

全国高校総体は中止でも、それだけで人生は終わらないし、

全ての答えになることも絶対はない。

今できることを真剣にしていれば、

その誠実さを見て、過程を見て、導いてくれる大人は必ずいる。

少なくとも僕はそういう大人に何度も救われ、これまで走ってこられた。

だからこそ、今は真剣さを失うな。そして、あきらめるな。